【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2004-526546(P2004-526546A)
【公表日】平成16年9月2日(2004.9.2)
【年通号数】公開・登録公報2004-034
【出願番号】特願2002-591063(P2002-591063)
【国際特許分類第７版】
　Ａ６１Ｍ　1/12
【ＦＩ】
　Ａ６１Ｍ　1/12

【手続補正書】
【提出日】平成17年4月25日(2005.4.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　血液をポンピングするために心臓を機械的に補助する方法において、
　第１の所定の時間期間中、前記血液をポンピングするために少なくとも前記心臓を補助するように、第１のカニューレ及び第２のカニューレを介して第１の心室補助装置を解放可能に及び密封的に接続する工程と；
　機械的な補助が続けて必要であるか否かを確かめる工程と；
　必要な場合は、前記第１の所定の時間期間の終了時に第２の心室補助装置に交換する工程と；
を有し、前記第１及び第２の心室補助装置が患者の人体内へ埋め込み可能であり、共にポンピング装置であり、前記第１の心室補助装置が短期間の使用に供するようになっており、前記第２の心室補助装置が長期間の使用に供するようになっていることを特徴とする方法。
【請求項２】
　前記カニューレが前記第１の心室補助装置又は前記第２の心室補助装置の接続のために再使用できることを特徴とする請求項１に記載の方法。
【請求項３】
　前記第１の心室補助装置が、同第１の心室補助装置を短寿命にわたって作動するのに適するようにする短寿命のための特色を組み込んでいることを特徴とする請求項２に記載の方法。
【請求項４】
　前記短寿命のための特色が前記第１の心室補助装置のポンプケーシング及びポンプロータの一方又は両方にプラスチック材料を使用することを含むことを特徴とする請求項３に記載の方法。
【請求項５】
　前記カニューレが、前記第１の心室補助装置又は前記第２の心室補助装置のいずれにも接続する必要なしに該カニューレの恒久的な埋め込みを許容するように、恒久的又は一時的にシールできることを特徴とする請求項１ないし４のいずれかに記載の方法。
【請求項６】
前記第１のカニューレが、使用時に、大動脈に接続するようになった端部と、第１の心室

補助装置の入口又は第２の心室補助装置の入口のいずれかに接続される末端とを有し、前記第２のカニューレが、使用時に、心室に接続するようになった端部と、前記第１の心室補助装置の出口又は前記第２の心室補助装置の出口のいずれかに接続される末端とを有することを特徴とする請求項５に記載の方法。

【請求項７】

前記第１のカニューレ又は前記第２のカニューレが、塞栓形成装置の挿入を受け入れるようになっていることを特徴とする請求項６に記載の方法。

【請求項８】

前記第１の心室補助装置が射出成形方法により作られることを特徴とする請求項７に記載の方法。